

2022

レース結果報告書

全日本選手権 第8戦 鈴鹿大会



DOG FIGHT R

株式会社ドッグファイトレーシング

全日本選手権・レース結果

Race

トップレベルのスピードを見せ始め、前戦の岡山ではトップ3の牙城を突破してフロントロー3番手を獲得と成長を見せた豊島怜。最終戦となる鈴鹿は1年の集大成でもあり、最もテクニカルなコースとしてライダーの技量が見極められる重要なコース。豊島はセッションごとに自己ベストを更新しながら常にトップ5に入るスピードをここでも見せて上位入賞の可能性を見せていた。今回のテーマは「強さ」として、結果を持ち帰り1年の成長をアピールする目標の中で最終戦を戦ってまいりました。そのレース結果をライダーのコメントと共にご報告致します。

尚、最終戦はポイント獲得者のみの参戦の為、谷本選手は出場権を獲得できなかったため不参加となっております。

タイトル：全日本選手権 第8戦 MFJグランプリ（鈴鹿サーキット）

開催日：2022年11月5-6日

観客動員：9400人（土日合計）

リザルト：#6 豊島 怜 予選3位 決勝リタイヤ



レース報告・豊島怜 #6

Race

豊島怜コメント

公式予選

最終戦は事前テストが無く、木曜日から二日間のテストがありましたが、上位勢の中で唯一8耐を走ってないので走行時間が明らかに劣っています。劣勢を覚悟で臨みましたが、いざ走り出してみるとトップと遜色無いタイムを出すことができました。予選ではいつも通り先頭から出走して単独でのタイムアタックをしました。アウトラップを終え計測1周目に渾身のアタックが決まり、前日よりも1.2秒速い想定していた以上のタイムを出すことができました。その後はガソリン満タンにして決勝に向けたセットアップを行いました。結果予選は3番手で2戦連続のフロントローを獲得することができました。やはり鈴鹿でのフロントローは格別です。

決勝

決勝は無難なスタートから4番手で2コーナーを通過。その後は3周目辺りからフロントに違和感が出てしまい何をしてもフロントが滑ってしまいペースを上げることができず5番手までポジションダウン。そして130Rで大きくフロントが滑りコースアウトをし、すぐに復帰したものの6番手までポジションダウン。その後は上手くマシンをコントロールしながら何とかペースを上げて5番手を追いついてきた所で9周目にデグナーカーブの1個目の進入でフロントからスリップダウンをしてしまいました。

感想

予選までは完璧な流れが出来ていましたが、今回のレースも転倒リタイヤということで非常に悔しい結果となりました。その中でこの位置まできたらこそ分かったこともあり、マシンの挙動や電子制御の方向性やタイヤ選択など、来シーズンに向けて多くの課題を見つけることができました。今年はとにかくトップを狙えるスピードは確実に身に付いたと思います。あとは一発タイムだけでなく、継続してペースを維持できるマシン作りをできれば優勝が見えてきます。この悔しさを原動力にしてチームと共に来年に向けてもう動き出しています。

来年は日本一になれるように手を伸ばし続けていきたいと思えます。

チーム関係者の皆様、並びにご協賛して頂いている各位スポンサーの皆様、誠にありがとうございました。

監督コメント

Ofisyaru Comment

予選までの好調な流れで最後まで走り切る事が今回の必須テーマでしたから、決勝の結果は反省しなければいけません。厳しい結果でしたが直後に感じた事は「結果が悪くて良かった」でした。あのまま無難に走れば6位入賞は出来たでしょう。チームも「まあまあ良かったね。来年も頑張ろう」で終わっていたと思います。しかし前を追いかけて、アタックを続けて転倒した事で改めてトップチームとの大きな差を認識して前に進む決意が生まれました。

幸いライダーに怪我は無くマシンも軽傷だった事は救いです。レースは終わりましたがマシンの修復も完了して次のテストに向け準備完了です。2023シーズンは転倒の瞬間からスタートしています。前進あるのみ

あっという間の2022年シーズンでしたが、いつも変わらぬご支援・ご協力を頂き誠にありがとうございました。チームスタッフも厳しい社会環境の中、ハードスケジュールに付いてきてくれてありがとうございます。2023年は更にパワーアップして結果を残してゆきたいyと思いますので、引き続き何卒よろしく願い申し上げます。

代表 室井秀明

スポンサー



有限会社ライフサポート



竹中興運



E.P.S



ご支援・ご協力を賜り誠に有難うございます。2022年も頑張ります！



ギャラリー

Gallery

